

Press Release

2021年9月30日

【開幕】2021年度秋冬プログラム

りんご前線 — Hirosaki Encounters

会期：2021年10月1日（金） - 2022年1月30日（日） ※会期が変更になりました

弘前れんが倉庫美術館（青森県 弘前市）

参加アーティスト：小林エリカ、斎藤麗、佐野ぬい、塙本悦雄、村上善男

+ ケリス・ワイン・エヴァンス

空間構成：蟻塚学 建築写真撮影：柴田祥



斎藤麗「winter donuts/iwakisan」 本展展示風景

りんごのテロワール（土壤）・弘前 様々な出会いと遭遇の磁場

本展は、英国を代表する現代アーティストのケリス・ワイン・エヴァンスのコミッショナーウーク（委託制作）を基点に、第一部「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」展（2021年4月10日 - 8月29日）に続く、第二部として開催します。りんごのテロワール（土壤）としての「弘前」の地に注目し、弘前ゆかりのアーティストたちの作品や当地との出会いから生まれた作品などで構成されます。

「前線」は、異なる気団の境界・交線で起こる大きな気象の変化や、運動の第一線などを意味します。この言葉をキーワードに、異なる世界との交差、自然と人工、現実と空想、近代と現代、東洋と西洋、過去と現在、あるいは家族の歴史を通した過去や土地との出会いといった様々な遭遇や対峙・交流から生まれる創造やエネルギーなどについて考えるとともに、弘前の風土性や場の力に関する思索を促します。

本展では、ケリス・ワイン・エヴァンスが弘前のりんごとの出会いから発想し、生み出した巨大なネオン彫刻を第一部から継続して展示します。弘前と様々な接点を持つ、世代も背景も大きく異なる5名のアーティストたちの絵画、彫刻、ドローイング、映像、インスタレーションなど多様な作品群を、美術館の空間に合わせて展示、紹介します。

また、毎回多角的なアプローチで地域性や創造的魅力を再考する「弘前エクスチェンジ#04」では、りんごの街・弘前、そのテロワール（土壤）について考えを巡らせます。弘前の街並みの形成を「前線」との関係で捉えたり、豊かな近代建築群に光をあてるとともに、雑誌『津軽学』を通して土地の個性についても考えます。展示や会場構成などに弘前の建築家や写真家も加わり、地域の様々な創造的活力に触れる機会にもなるでしょう。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL：0172-32-8950 FAX：0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1

展覧会のみどころ

1. 弘前と様々な接点を持つ、幅広い世代のアーティストたちの活動を紹介

弘前市名誉市民である洋画家の佐野ぬいをはじめ、現在はパリを拠点に活動する弘前出身の斎藤麗、さらに、父親が弘前生まれというルーツをもち、小説執筆や漫画家、アーティストとして多彩な活動を展開する小林エリカなど、幅広い弘前ゆかりのアーティストたちの活動を紹介します。

2. 煉瓦倉庫を改修した展示空間に合わせた新作を含む展示

美術館のユニークな空間にあわせて、佐野ぬい、斎藤麗、小林エリカ、塙本悦雄は新作を発表します。また、村上善男の展示は、故人を良く知る関係者の協力により「もし作家が生きていたら」という仮定に基づき、作品と美術館の空間との対話をはかるとともに、現在の視点から改めてその創作活動について考えます。

3. 地域誌の活動を通して「場の力」「風土性」の考察や、弘前の建築、街並みにもフォーカス

「弘前エクスチェンジ#04」では、地域の建築家や写真家、出版社、大学、市民団体などの協力を得て、「前線から見える街並み」、「津軽学」、「弘前建築再考」、「前川國男建築」というトピックのもと、様々な創造を育む、弘前・津軽の風土や土地の個性、場の力などについて考えます。展示空間デザインは建築家の蟻塙学が担当します。

4. 自由な展示のリズムと空間の使い方、異なる切り口による作品解釈

当館のために制作されたケリス・ワイン・エヴァンスの巨大なネオン彫刻は、第一部から継続して展示されます。本作を2つの異なるテーマの展覧会で展示することで、自由な展示のリズムと空間の使い方を模索するとともに、様々な角度から多様な作品解釈を促します。

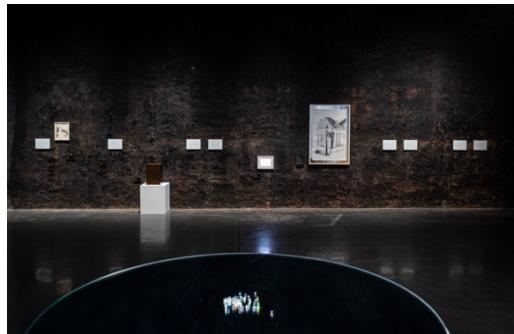
出品作品点数 | 80点

弘前エクスチェンジについて

弘前ゆかりのアーティスト、クリエイター、研究者らに注目し、異なる視点が交差・交換される場を生み出すことで、新たなアプローチで地域性の考察、創造的魅力の再発見に繋がることを目指す「弘前エクスチェンジ」を年間を通して行なっています。

展示作品・プロフィール

小林エリカ KOBAYASHI Erika



小林エリカ「旅の終わりは恋するものの巡り合い」本展展示風景

1978年、東京都生まれ、東京都在住。

目に見えない物、時間や歴史、家族や記憶、場所の痕跡から着想を得た作品で知られる。小説に散りばめられたフィクションとドキュメンタリーの要素が、私的なナラティブと社会のリアリティーの狭間で行き来する光景を追体験するようなインスタレーションを国内外で発表。2014年には小説『マダム・キュリーと朝食を』（集英社）で、第27回三島由紀夫賞・第151回芥川龍之介賞にノミネートされ、2020年、小説『トリニティ、トリニティ、トリニティ』（集英社）で第7回鉄犬ヘテロトピア文学賞受賞。近著は『最後の挨拶 His Last Bow』（講談社）。

本展では、弘前の第八師団軍医であった祖父や同地生まれの父の足跡を通し、過去や家族の歴史、弘前の土地に出会う個人的な旅から発展させたドローイングやテキスト、映像などで構成される新作を展示する。

斎藤麗 SAITO Lei



斎藤麗「ウィンター・ドーナツ／イワキサン」
本展展示風景

1980年、青森県弘前市生まれ、パリ在住。

フォトグラヴュール、彫刻、タイトル、ドローイング、パフォーマンスなど、様々なテクニックを組み合わせ、誰も見たことのない、けれどどこかで見た何かを思い起こさせる「風景」としてのインスタレーションを構成する。しばしばギリシャ神話やイタリアのルネサンス絵画、日常の細部や宇宙的リズムに着想を得たその風景は、ときに古代のモザイクや、南極の流氷下深海の不可視的な世界にも似た、新しいシナリオを空間に織りなす。ポンピドゥーセンターのウェブシリーズ Mon Oeil に『Paysages délicieux』から5つのエピソードが紹介されている。初めての書籍を Is-Land édition から年内出版予定（仏英日語）。

新作《ウィンター・ドーナツ／イワキサン》は美術館の空間や弘前の風景にあわせ、作家の故郷である弘前での約1ヶ月間の滞在により制作された。現在拠点とするパリで制作したセラミックやフォトグラヴュール（写真をもとにした銅版画）、弘前で制作した石膏や金の文字など、多様な素材、形態の作品を組み合わせた新作インスタレーションを展示。

佐野ぬい SANO Nui



佐野ぬい「明日のテーマ」 本展展示風景

1932年、青森県弘前市生まれ、東京都在住。

1950年代の制作初期から一貫して多くの青を基調とした作品を描き、「青の画家」として知られる。リズムをともなう色面の構成を通して、青の豊かな表現を展開。キャンバスに描かれた絵画作品の他、壁画やステンドグラスなど公共空間のための作品も制作している。1955年、女子美術大学芸術学部洋画科卒業。1994年、青森県褒賞文化功労者。1996年、パリにて個展(00、03年)。2001年青森県文化賞受賞。2007~11年、女子美術大学学長。2012年、瑞宝中綬章受章。2015年、弘前市名誉市民。現在、女子美術大学名誉教授、新制作協会会員。

本展では「原点」と「現在」、作家自身がかつて想像した「夢の美術館」などをキーワードに、かつてのシードル工場を改修した当館の独自の展示空間にあわせて作品を展示。1950年代から近年までの作品群のほか、本展のための新作12点も紹介。

塚本悦雄 TSUKAMOTO Etsuo



塚本悦雄「津軽モンタージュ」 本展展示風景

1962年、熊本県生まれ、青森県弘前市在住。

自然に対する人間の行為をテーマに、彫刻をつくることもその一部と捉え、粘土・石・木などを素材とした具象彫刻やドローイングをオーソドックスな手法で制作する。近年は津軽の自然や文化に関する身近な存在をモチーフとする作品を中心に発表している。

本展では、近年の作品の中から津軽特有のものとして飼育されている生物であるマメコバチや津軽錦(金魚)をモチーフにした代表作に加え、ソメイヨシノに関連した新作の大型ドローイングなどを展示。また展示室内にアトリエをしつらえ、会期中に継続的に公開制作を行う。

村上善男 MURAKAMI Yoshio



村上善男「北奥百景」本展展示風景

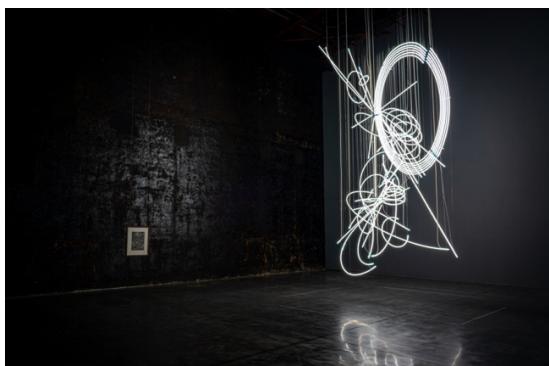
1933年、岩手県生まれ。2006年、同地にて没。

緻密な計算による画面構成と抑制の効いた色彩を持つ理知的な作風に特徴をもつ。1950年代以降、生涯にわたり東北を拠点に精力的に活動し、1960年からは注射針を主媒体としたシリーズを制作。その後、気象図、貨車を種別する記号を主題に用いたシリーズへと展開した。1982年、弘前市に移り、弘前大学で教鞭を執る傍ら、古文書や染め布などを画面に貼りつけた「釘打ち」シリーズを制作。詩の創作も行うなど、多岐にわたる作品を残した。

本展では、弘前の地との関係性で作られ、守られてきた作品やポスターなど、村上の創作の多様性や民俗と前衛の関係を感じさせる作品や資料群を展示。また、村上の著書『北奥百景』になぞらえ、村上と弘前の地の出会いによって生み出された作品を、作家の言葉や生前のエピソードとともに紹介する。

(展示協力：鎌田紳爾、木村正幸、田中久元、三浦孝治)

ケリス・ワイン・エヴァンス Cerith WYN EVANS



ケリス・ワイン・エヴァンス
《Drawing in Light (and Time) ...suspended》2020年
本展展示風景 弘前れんが倉庫美術館蔵

1958年、英国、ウェールズ生まれ。英国、ロンドン在住。

1980年代から実験的な映像作品を手がけ1990年代以降はネオン、音、鏡などを用いて制作。哲学や音楽、天文学、物理学など多様な分野に基づく作品は、国際的に高い評価を得ている。各国の主要美術館で個展を行っており、第50回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展ウェールズ館代表（イタリア、2003年）。ヘップワース彫刻賞受賞（英国、2018年）。

本展では、弘前のりんごとの出会いから生まれたネオン作品《Drawing in Light (and Time) ...suspended》（2020年）ほか複数の作品を、展覧会「りんご宇宙」から継続して展示。さらに、本展のテーマにあわせて、日本文化などへの深い関心のもとに制作された、彫刻や建築、写真、二次元と三次元の間を繋ぐ写真作品「Spatial Intervention」シリーズ（2020年）の3点を展示。

弘前エクスチェンジ #04

りんごのテロワール（土壤）についての試考



「弘前エクスチェンジ#04 りんごのテロワール（土壤）についての試考」
本展展示風景

弘前エクスチェンジ #04 では、「りんご前線—Hirosaki Encounters」展にあわせて、りんごの街・弘前、そのテロワール（土壤）について考えを巡らせます。「前線から見える街並み」、「津軽学」、「弘前建築再考」、「前川國男建築」という4つのトピックのもと、蟻塚学が構成したりんご箱を使った構造物による空間にて、資料や模型、写真、映像を展示します。また、会期中を通して実施するディスカッションシリーズも併せて、様々な創造を育む、弘前・津軽の風土や土地の個性、場の力などについて考えるきっかけとなることを願います。

空間構成

蟻塚学（建築家）

1979年、青森県弘前市生まれ、弘前市在住。

三分一博志建築設計事務所を経て2008年に蟻塚学建築設計事務所を設立。県内外の住宅等の設計の他、地域や人と関わるプロジェクトにも携わる。「弘前エクスチェンジ#04」の展示空間デザインを担当。

建築写真撮影

柴田祥（写真家）

1981年、青森県平川市出身、弘前市在住。

自然や鉄道など、地元青森の津軽地方の風景を中心に撮影した写真作品を制作する。「弘前エクスチェンジ#04」の展示のため、弘前の街中で出会うことの出来る近代建築を独自の視線で撮り下ろした。

企画協力

北原啓司（弘前大学教育学部教授）

津軽に学ぶ会

ものの芽舎

前川國男の建物を大切にする会

葛西ひろみ（前・前川國男の建物を大切にする会代表）

写真はすべて 撮影：柴田祥

アーティストインタビュー アーティストの部屋（弘前・遭遇）Ⅰ：小林エリカ／斎藤麗／佐野ぬい

本展にあわせて、参加アーティストの小林エリカ、斎藤麗、佐野ぬいにインタビューを行いました。作家がそれぞれの活動や本展展示作品などについて語ったインタビューの動画を、オンラインで公開します。

※詳細は後日、当館ウェブサイトで発表

ワークショップ「津軽モンタージュ工房」で本展参加作家・塙本悦雄と一緒に作品を作ろう

「弘前アラカルト」をテーマに弘前の特徴的なモチーフや建物などをテラコッタ（素焼き粘土）で作り、参加者が作った作品を組み合わせて、大きな作品を作り上げるワークショップです。焼き上げた作品は2022年1月以降、展示室4にて展示予定です。

日時 | 2021年10月9日（土）・16日（土）・23日（土）
11月6日（土）・13日（土）・20日（土）・27日（土）
12月4日（土）

時間はいずれも11:00-12:00

会場 | 展示室4

料金 | 参加無料

対象 | 小中学生

定員 | 各日2名（要事前予約）

申込み | 予約サイトURL <https://20211009-1204ws.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク 村上善男と津軽・弘前

村上善男と深く交流を持ち、「りんご前線」展の企画に関わった4名が、今回の展示について、弘前・津軽と村上善男の関係性などについて語ります。

出演 | 鎌田紳爾、田中久元、三浦孝治 進行：木村正幸

日時 | 2021年10月30日（土）16:00-17:30

会場 | スタジオB

料金 | 参加無料

定員 | 20名（事前予約優先）

申込み | 予約サイトURL <https://20211030talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク アーティストの部屋（弘前・遭遇）Ⅱ：塙本悦雄

本展参加アーティストの一人で、会場内にアトリエ空間を設え、公開制作を継続する塙本悦雄に、展示作品や活動について話を聞きます。

出演 | 塙本悦雄 聞き手：三木あき子

日時 | 2021年10月31日（日）11:00-11:40

会場 | 展示室4

料金 | 参加無料

定員 | 10名（事前予約優先）

申込み | 予約サイトURL <https://20211031talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク 津軽学

「弘前エクスチェンジ#04」に参加する雑誌『津軽学』関係者が、今回の展示とともに2005年の創刊から現在に至る活動を振り返り、津軽の地の風土、特性について語り合います。

出演 | 佐藤史隆（ものの芽舎代表）、川嶋大史（メディアプランナー）

日時 | 2021年11月21日（日）14:00-15:30

会場 | ライブライバー

料金 | 参加無料

定員 | 30名（事前予約優先）

申込み | 予約サイトURL <https://20211121talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク 弘前の近代建築と街並み

「弘前エクスチェンジ#04」に参加する建築家、市民団体関係者、研究者が、弘前の街並みと近代建築について、様々な視点から議論します。

出演 | 蟻塚学（建築家）、葛西ひろみ（前・前川國男の建物を大切にする会代表）、北原啓司（弘前大学教育学部教授）

日時 | 2021年12月12日（日）14:00-15:30

会場 | ライブライバー

料金 | 参加無料

定員 | 30名（事前予約優先）

申込み | 予約サイトURL <https://20211212talk.peatix.com> 電話 0172-32-8950

トーク りんごのテロワール（土壤）についての試考

展覧会クロージングに際して、これまでのディスカッション参加者の一部が集まり、様々な創造を育む、りんごのテロワール（土壤）、弘前・津軽について議論します。

日時 | 2022年1月9日（日）予定

※詳細は決まり次第当館ウェブサイトで発表

関連プログラム

ギャラリーツアー

本展会期中は学芸スタッフによるギャラリーツアーを開催します。

新型コロナウィルス感染症の感染拡大防止のため、イヤホンガイドを使用します。

日時 | 本展会期中 毎週日曜日 11:00-12:00

料金 | 参加無料（要当日観覧券）

定員 | 10名

申込み | 不要（当日先着順）

集合場所 | 1階受付前

音声ガイド

来館者が自身のスマートフォンを使って聴くことができる音声ガイドを公開します。会場に提示されたQRコードを読み取ってご利用いただけます。

展覧会ブックレット

作品解説や展示風景写真、テキストなどを収録した展覧会ガイドブック（日英バイリンガル）を2021年 12月下旬に発行予定です。当館隣接のショップ、または、オンラインストアで予約いただけます。

オンラインストアは準備が出来次第、当館ウェブサイトでお知らせします。

仕様 | A5 判（表紙：片観音開き）、64 ページ、フルカラー

価格 | 800 円（税込）

弘前エクスチェンジ #01 潘逸舟

オンライン企画「津軽まわるテーブル」で新コンテンツ公開

2020年の「弘前エクスチェンジ#01」に参加し、リサーチやワークショップを通して作品を発表した潘逸舟のオンライン企画「津軽まわるテーブル」に新しいコンテンツが加わりました。

「時間の距離 一動かない点 H としての弘前一」では、潘の中学校の同級生である写真家・葛西優人による写真とテキストで、潘との過去の時間の共有を手がかりとして弘前という場所を捉え直します。また、潘へのインタビューや、彼の父へのインタビューの続編、昨年開催したワークショップ「わとなと潘逸舟」で収録した津軽弁の音声ガイドもお聴きいただけます。その他、三木あき子との対談「移動する身体と風景と抵抗について…」も公開中です。

URL <https://www.hirosaki-moca.jp/exchange/01-han-ishu/tsugaru-mawaru-table/>



開催概要

- | プログラム名： 2021 年度 秋冬プログラム
「りんご前線 — Hirosaki Encounters」
- | 会期： 2021 年 10 月 1 日（金） - 2022 年 1 月 30 日（日）
- | 開館時間： 9:00 - 17:00 （入館は閉館の 30 分前まで）
- | 休館日： 火曜日（祝日の場合は翌日に振替）
※ ただし 11 月 23 日（火・祝）は開館、翌 11 月 24 日（水）は休館。
※ 12 月 26 日（日） - 1 月 1 日（土）は休館
- | 観覧料： 一般 1,300 円（1,200 円） 大学生・専門学校生 1,000 円（900 円）
※ () 内は 20 名様以上の団体料金
※ 以下の方は無料
高校生以下の方/弘前市内の留学生の方/満 65 歳以上の弘前市民の方
ひろさき多子家族応援パスポートをご持参の方/障がいのある方と付添の方 1 名
- | 主催： 弘前れんが倉庫美術館
- | 展覧会キュレーター： 三木あき子
- | 会場： 弘前れんが倉庫美術館 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1
- | 一般問合せ： TEL: 0172-32-8950
- | アクセス： JR 弘前駅より
- 弘南バス・土手町循環 100 円バス「土手町十文字」下車 徒歩 約 4 分
- 徒歩 約 20 分
- タクシー 約 7 分
- | ウェブサイト： <http://www.hirosaki-moca.jp>
- | SNS : Instagram : @hirosaki_moca
Twitter : @hirosaki_moca
Facebook : @hirosaki.moca
Youtube : <https://www.youtube.com/watch?v=8qx10fDGm30>

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当: 大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail: press@hirosaki-moca.jp 〒036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1

FAX: 0172-55-5982 または E-MAIL: press@hirosaki-moca.jp

2021年9月30日

弘前れんが倉庫美術館（青森県弘前市）

りんご前線—Hirosaki Encounters

会期：2021年10月1日（金）- 2022年1月30日（日）

広報画像申請書

▼貴媒体についてお知らせください。

| 媒体名

| 貴社名

| ご担当者

| 所属部署

| ご住所

| 電話番号

| FAX 番号

| E-MAIL

| 掲載・放映の予定が決まっていたらお知らせください。

年 月 日

| 読者プレゼントのご希望 希望する 組 名様 (2021年12月31日迄 掲載対象) 希望しない

*画像1点以上ご掲載の場合、本展の招待券10枚まで提供します。 / 美術館までの交通費は自己負担のご案内をお願いします。

▼広報画像は、希望される画像の番号に「○」で印をつけてください

広報画像にはすべて以下キャプション・クレジットを併記してください

[1]



斎藤麗「ウィンター・ドーナツ／イワキサン」

（「りんご前線—Hirosaki Encounters」展示風景）

撮影：柴田祥

[2]



小林エリカ「旅の終わりは恋するものの巡り合い」

（「りんご前線—Hirosaki Encounters」展示風景）

撮影：柴田祥

[3]



佐野ぬい「明日のテーマ」

（「りんご前線—Hirosaki Encounters」展示風景）

撮影：柴田祥

[4]



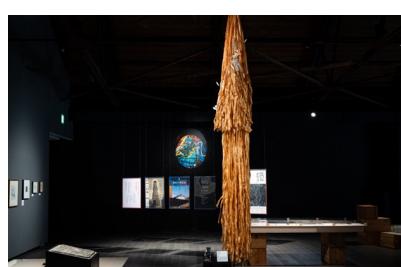
塙本悦雄「津軽モンタージュ」

（「りんご前線—Hirosaki Encounters」

展示風景）

撮影：柴田祥

[5]

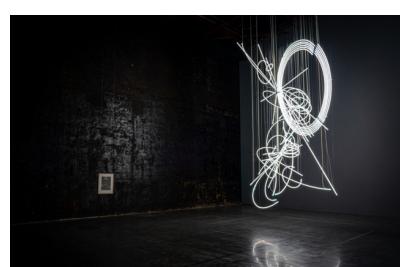


村上善男「北奥百景」

（「りんご前線—Hirosaki Encounters」展示風景）

撮影：柴田祥

[6]



ケリス・ウイン・エヴァンス

《Drawing in Light (and Time) ...suspended》

2020年 弘前れんが倉庫美術館蔵

撮影：柴田祥

[7]



「弘前エクスチェンジ#04 りんごのテロワール（土壤）についての試考」
（「りんご前線—Hirosaki Encounters」展示風景）

撮影：柴田祥

<広報画像、取扱に関する規定>

- 広報画像の使用は美術館をご紹介いただく場合のみとさせていただきます。
- 広報画像をご紹介いただく場合、指定のキャプションとクレジットを必ずご記載ください。
- 全図で使用してください。トリミング、変形、部分使用、文字のせは原則禁止となっております。
- 掲載記事・番組内容については、基本情報確認のため、可能な範囲でゲラ刷り・原稿の段階で広報までFAXまたはメールでお送りください。

広報に関するお問い合わせ

弘前れんが倉庫美術館 広報担当：大澤、石川（公）

TEL : 0172-32-8950 FAX : 0172-55-5982 E-mail : press@hirosaki-moca.jp ☎ 036-8188 青森県弘前市吉野町 2-1